

報告事項

平成21年度全国学力・学習状況調査の結果について

指導課

- 1 実施日 2009年4月21日(火)
- 2 対象 小学校41校(全校) 第6学年 3,680人  
中学校20校(全校) 第3学年 2,876人
- 3 調査教科等 ○国語、算数・数学(A:主として「知識」に関する問題・B:主として「活用」に関する問題)  
○児童・生徒、学校に対する調査

4 学力調査結果

【小学校】平均正答率 ※ ( ) 内の数値:平均正答数 / 問題数

	国語		算数	
	A:主として知識	B:主として活用	A:主として知識	B:主として活用
町田市	71.2% (12.8 / 18)	52.7% (5.3 / 10)	79.0% (14.2 / 18)	59.0% (8.3 / 14)
東京都	71.6% (12.9 / 18)	53.6% (5.4 / 10)	79.7% (14.3 / 18)	58.7% (8.2 / 14)
全国	69.9% (12.6 / 18)	50.5% (5.1 / 10)	78.7% (14.2 / 18)	54.8% (7.7 / 14)

【中学校】平均正答率 ※ ( ) 内の数値:平均正答数 / 問題数

	国語		数学	
	A:主として知識	B:主として活用	A:主として知識	B:主として活用
町田市	76.8% (25.3 / 33)	73.8% (8.1 / 11)	64.2% (21.2 / 33)	57.9% (8.7 / 15)
東京都	77.0% (25.4 / 33)	73.8% (8.1 / 11)	62.6% (20.6 / 33)	56.8% (8.5 / 15)
全国	77.0% (25.4 / 33)	74.5% (8.2 / 11)	62.7% (20.7 / 33)	56.9% (8.5 / 15)

5 調査結果から

〈小学校〉

本市平均正答率は国語、算数共に、東京都・全国とほぼ同じ数値を示しています。国語・算数共に、知識・技能を「活用する力」に全国的に課題があることがわかりました。例えば、国語については、「目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書くこと」や「自分の立場や意図を明確にして話し合うこと」など、算数では、「示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述すること」や「基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述すること」などが低い正答率でした。改善策として、自分が考えたことを明確に表現するために、文章と資料とを関係付けて表現したり、根拠となる事柄を明らかにして説明したりする習慣を身に付けることが大切だと考えます。

〈中学校〉

本市平均正答率は国語、数学共に、東京都・全国とほぼ同じ数値を示しています。数学については、知識・技能を「活用する力」に全国的に課題があることがわかりました。例えば、「筋道立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明すること」や「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」などが低い正答率で、無解答率は高い数値を示していました。改善策として、数や図形について成り立ちそうな事柄を予想し、予想した事柄を正確に表現し、別の具体的な場合で確かめたり、実生活の場面における問題解決では、事象を理想化・単純化して数学の問題としてとらえたりする学習を取り入れることが大切だと考えます。